

国際ロータリー 第2510地区

2004-2005年度

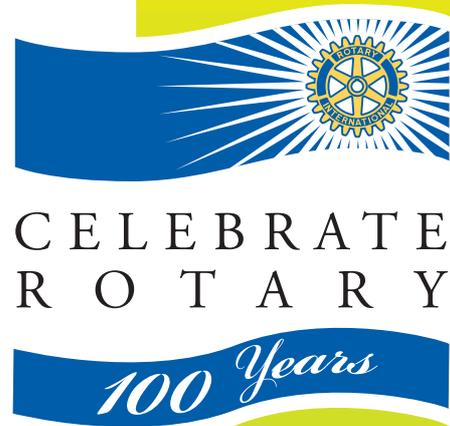
ガバナー月信

国際ロータリー第2510地区
2004-2005年度ガバナー 遠藤 秀雄

〒059-0034 北海道登別市鷺別町2丁目31-1 医療法人社団友愛会 恵愛病院2F

TEL : (0143)82-2510 FAX : (0143)82-2512

e-mail : keiai.hp.rc@triton.ocn.ne.jp



DISTRICT 2510 of ROTARY INTERNATIONAL
2004-2005
GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

地区大会が間近になってきました!	2
ガバナー's LETTER	3
ガバナー日記	4
地区会員増強研修セミナー報告	6
10月は職業奉仕月間です	7
「職業奉仕」よ、永遠なれ。	8
10月は米山月間です	10
11月はロータリー財団月間です	11
米山奨学生学友会(北海道)のこと	12
地区委員会活動報告	
・「社会奉仕、家庭奉仕、子ども奉仕活動に関する 3委員会合同の意見交換会」開催	13
・第2800地区インターアクトクラブと交流	15
家庭奉仕事業の紹介	
子ども家庭奉仕委員長を拝命して	16
米山評議員会に参加して	18
国際奉仕委員会からのご案内	19
第1回補助金委員会報告	20
ハイライトよねやま55	22
会員投稿	
・ある財団学友の結婚	24
ロータリー文庫通信	
地区世界社会奉仕委員会からのお知らせ	25
こんにちは! 第2グループです	26
こんにちは! 第7グループです	
ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます	27
掲示板/ガバナー事務所からのお願い	28
8月会員増減数・出席率報告	29
新入会員のご紹介/訃報	30
10・11月地区カレンダー	31

2004-2005 Governor
ENDO HIDEO

Keiai Hospital 2F, Washibetsu-cho, 2-31-1, Noboribetsu, Hokkaido, 059-0034, JAPAN
(e-mail : keiai.hp.rc@triton.ocn.ne.jp) TEL.81-143-82-2510 FAX.81-143-82-2512

No.4 **10**
2004.

地区大会が間近になってきました！

年に一度、地区内ロータリアンが集います。
あなたの10月16日・17日は実りある2日間となります。

本年度の地区大会は10月16日(土)17日(日)に開催されます。地区大会は地区における最大の行事で、地区内のすべてのロータリアンとその家族と共に旧交を温め、新しい友人を作る絶好の機会といえます。グレン・E・エステスR I会長の『ロータリーを祝おう』のテーマのもと、地区大会テーマに『奉仕の第二世紀へ』を掲げました。

地区内ロータリアン多数が参加され、創立100年を迎え、ロータリーとこれからのロータリーについて、皆さんとともに今一度考える場にしたいと思っております。

また、昨年と同様に、本会議を2日間に分けました。遠隔地のクラブの要望を聞き、2日目の懇親会は従来の夕食会でなく昼食会とし、すべての日程を午後3時で終了するようプログラムを組みました。

これにより、時間的には若干タイトになりましたが、プログラム内容をコンパクトにし、ロータリーを深く考える機会にいたしました。

本会議 1日目 13:20~14:40 地区委員会活動報告

地区の28委員会より活動の報告や計画の発表があり、地区活動への理解を深める絶好の機会と思われる。

記念フォーラム 14:45~16:30

フォーラムのテーマは「私たちの異文化体験と国際親善」です。第3350地区(タイ・バンコク地区)G S Eチームの紹介と報告に加え、ロータリー財団の学友を中心にその過去、現在から未来についての展望を真剣に討論していただきます。また、会場からもご意見を頂きたいと思っております。

R I 会長代理ご夫妻歓迎晩餐会 18:00~19:45

R I 会長代理として、石井治第2770地区バスターガバナー(春日部RC)ご夫妻をお迎えして、歓迎晩餐会が開かれます。大勢の会員の方々の参加をお待ちしております。

本会議 2日目 9:00~10:40

石井治R I 会長代理からのR I の現況と、遠藤秀雄ガバナーより第2510地区の現況を詳細に報告して頂きます。現状を把握するまたとない機会です。様々な奉仕活動に大きく貢献した、個人・団体などへの表彰が行われます。活動への大きな励みになると思われ。

記念講演会 11:10~12:15

女優としてテレビや舞台で活躍中で、多くの講演も行っている、松島トモ子氏に「多くの人たちとの出会いのなかで」と題して100周年の感慨も込めてお話しして頂きます。ロータリアンでもある彼女の豊かで貴重な体験を通じた講演により、私たちのロータリーライフに何らかの示唆を与えてくれるものと信じております。

記念懇親会(第一滝本館) 13:30~15:00

すべての行事を終えゆったりとした気持ちで、日ごろお会いできない遠方の方々と懇親を深めて頂きたいと思っております。

地区大会プログラム

第1日目 10月16日(土)

会長幹事会

祝いの宿 登別グランドホテル
9:30 登録開始
10:30 点鐘・開会の挨拶
11:20 閉会

本会議 1日目

祝いの宿 登別グランドホテル
11:30 登録開始
12:30 点鐘・開会の挨拶
12:50 大会運営委員会報告
13:10 大会決議案上程・採択
13:20 各委員会活動報告
14:45 記念フォーラム
16:30 点鐘・終了

R I 会長代理ご夫妻歓迎晩餐会

祝いの宿 登別グランドホテル
18:00 ウェルカムドリンク
18:15 着席・開演
19:45 閉会

第2日目 10月17日(日)

本会議 2日目

日本工学院北海道専門学校
8:30 登録開始
9:00 点鐘・開会
ガバナー挨拶
R I 会長代理ご夫妻と来賓紹介
R I 会長代理挨拶
9:50 参加者紹介
10:40 表彰
11:10 記念講演会
12:15 R I 会長代理所感
12:30 点鐘・終了

記念懇親会

第一滝本館
13:30 開会
15:00 閉会



奉仕の第二世紀へ

Gガバナー's レターOVERNOR'S LETTER

米山月間によせて

国際ロータリー第2510地区

ガバナー 遠藤 秀雄



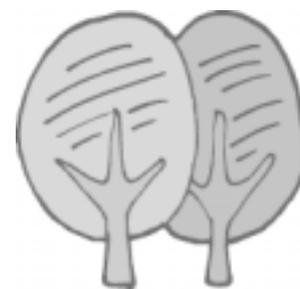
今月は職業奉仕月間と米山月間です。職業奉仕については公式訪問の卓話で強調してお話を申し上げているので、今回は米山奨学事業について考えてみたいと思います。

1953年、東京ロータリークラブが米山梅吉氏のロータリー活動に対する功績を記念し、「米山基金」として募金を始めたことに端を発しています。1957年に国内全クラブの合同事業となり、1967年に財団法人ロータリー米山記念奨学会として今日までに活動を続けています。

年間の奨学金支給額が約16億円で、これまで101ヶ国12,200人以上の奨学生を支援し、民間では最大の留学生奨学団体となっています。その目的は、国際理解に努め世界平和の創造と維持に貢献することにあります。この事業の特長は、経済的支援だけでなく、世話クラブとカウンセラー制度によるロータリーならではの心の通った支援にあります。これまで、ロータリアンはもとより、個人や法人からも支持されて順調に活動してきました。奨学生を終えた米山学友の人達も増えて、米山奨学会学友会も日本に22団体、韓国・台湾に各1団体が組織され活動をしています。また、学友がロータリアンとなって活躍している喜ばしい例も見られます。しかし、長び

く不況によるロータリー会員減少からか、寄付金が減ってきています。そのため希望者の多いなか、2005年度から奨学金の減額と採用数の20%減を余儀なくされました。国際親善の楔となるこの事業に対する御理解となお一層の御支援をお願いを申し上げます。

今後の課題として考えなければならないのは、地域別・出身国別留学生数であります。アジア地域からの留学生の比率が93%、その中でも、中国・韓国・台湾出身者が83%を占めていますが、近年中国からの留学生が大幅に増加して、全体の約半数に達しています。それだけ優秀な学生が多いことには違いはないと思いますが、この事業の主旨から考えると、感情論は抜きにして国籍のバランスと優秀な留学生の採用方針の折り合いをどうつけてゆくのかと言う問題が残ります。ロータリアンの叡智が必要な時だと思います。



ガバナー日記

8月18日(水) 昨日から第2800地区14名のインターアクターが藤川享胤 P.G.を団長として、池田徳博新世代委員会委員長、佐藤重勝インターアクト小委員会委員長、顧問教員の皆さんの引率のもと当地区を訪問され、堀田昌資委員長はじめインターアクト委員会の御世話で北海高校インターアクトクラブの皆さんと交流会を持たれた。大変活発に交流されたようで皆さん喜んでおられた。今日は登別温泉に宿泊されるので伊奈代表幹事、上田担当幹事と一緒に挨拶に伺った。かけ足で北海道の短い夏を楽しまれたようだった。

8月19日(木) 今日美唄におじゃまをして土谷茂樹第3グループガバナー補佐と御一緒に公式訪問。美唄RCは退会防止に悩んでいる。高い会費や財団等に対する寄付と関係はありはしないか委員会が多くて消化出来ないでいる。RIの方針が財団重視に偏寄ってはいないか等ロータリーの現状について疑問が寄せられ時間が足りない位意見の交換が出来た。岩見沢RCは現在98名の会員数で100名を目標に努力をしておられる。会員数が多く委員会活動がセクショナリズムにおち入らない様に理事会で各委員会活動を集約し会員に周知しておられるとのことで参考になった。最近ローターアクターの入会が少なく活気がないことで悩んでおられる。岩見沢東RCは退会防止に悩んでおられる。経験豊かな情報委員の活用をお願いした。また会員候補者に対して月4回の例会がネックになっているのではないかと疑問があり、また引き合いに出されるライオンズクラブも最近会員数を減らしている現状から親睦と奉仕活動の調和とクラブ内の「和」について意見交換ができました。合同例会では今日も職業奉仕と倫理の向上について意見を述べさせて頂いた。熱心に聞いて下さったことに感謝。



8月21日(土) 地区会員増強研修セミナーが開催された。RI会員組織コーディネーター高橋文夫氏(D2800・パストガバナー)は御講演で、「世界中における会員組織の増大と1本化」を含む「長期計画目標」が6月の規定審議会で圧倒的多数で承認された。このことは会員組織の退化がロータリー活動にとって重視されていることが窺える。今こそ原点に戻って「超我の奉仕」を皆で実践し地域社会のニーズを重視した活動・女性・青壮年と会話が深まる活力あるクラブ作りが求められる。今、国内で地域経済が低迷していることから会員数を減らしているが、この厳しさをクリアして組織強化をはかることがロータリーとして真価を発揮する所似だと思ふ。熱意を持って実践することが解決につながると求められ興味を持って拝聴した。その後の討議でも活発な発言があり参加者の真摯な態度に感謝したい。



8月23日(月) 丸山淳士ガバナー補佐と御一緒に札幌南クラブを訪問、須田会長から伝統的な「なごやぎの精神」でクラブが運営されている。ひまわり委員会があり献身的なボランティア活動をしていて陽の当たらない奉仕団体に対して支援をしている。今年度は次世代の育成を促すような交流を考えているとの御説明を頂いた。例会はパークホテルの内装が一新された気持ちのよい会場でなごやかに終了した。

8月24日(火) 今日土谷茂樹ガバナー補佐と御一緒に江別市民会館で江別クラブ・江別南クラブ・当別クラブの順に会長・会長エレクト・幹事さんと懇談をした。江別RCは家族に理解されるクラブ活動として家族と一緒に菓子造りや料理教室を楽しみ、青少年交換留学生の受け入れ

No. 9
Date 04.10.1

にも役立っている。また識字率の向上を目的に「ネパール・日本友情学校」の整備に協力して現在400～500人が通学している。社会奉仕活動にも積極的であった。江別南RCは創立記念例会に、やむなく退会した旧会員を招き旧交を温め会員増強の道作りをしたり、社会奉仕に積極的で友愛夏祭りに出店、スノーフェスティバルの雪像作り、雪解け時の市内清掃、幼稚園バザー参加に汗を流しておられた。当別RCは近隣のロータリークラブのないエリアで移動例会を開いて理解を深めたり、スウェーデン交流センターとの交流を深め国際親善に努めている。そして地域密着形のクラブ運営を目指している。



8月29日(日) 青少年交換学生帰国報告会及び歓迎会がアークシティーホテルで開かれた。帰国学生16名と受け入れ学生4名、ホストファミリーの皆さん、教員、日本語講師、ローテックス野沢委員長始め青少年交換委員、見延米山学友委員長、奥貫新世代パスト委員長等、大勢の御出席があった。帰国学生のスピーチは短期、長期を含め成長のあとが感じられ頼もしくロータリーとの絆が深まった。学生達やローテックスのパフォーマンスも若さが強調され大変楽しいもので和気藹々のうちに終了した。



8月30日(月) 財団法人ロータリー米山記念奨学会2004年度第1回評議員会が11:30～15:00ホテルパシフィック東京で開かれた。台風の日本縦断のため九州・四国・中国地方の評議員で出席出来なかった方々もいらした。15:00からのフォーラムも中止となった。

会議は2003年度事業報告及び収支決算書の承認、2004年度収支予算一部修正案と寄付行為一部変更を承認した。また林 保順(マレーシア、現三菱総研勤務)米山学友のスピーチがあり日本・アセアンの学友意識調査の結果から、魅力として日本の学術レベルが高い・留学生活に満足・職場で日本語が役立っているを上げているが、しかし英語圏はもっと魅力がある。従ってPRとサポートが必要で大学の国際競争力の強化と卒後の就職支援の問題をあげていた。

9月7日(火) 第3グループガバナー補佐の土谷茂樹さんと御一緒に栗山RCと栗沢RCの公式訪問で、栗山パラダイスヒルズホテルにお伺いした。栗山クラブは7月に2回例会後全員で交通安全啓蒙運動と道路清掃活動を展開。8月には2日間に亘り、地元は元より近隣の中学校に呼び掛け野球大会を盛大に開催する等、地道な活動で地域社会に貢献しておられる。栗沢クラブは5月に40周年記念式典を終えたばかりで一息ついたところであるが、会員数の減少に悩みつつ高齢者や福祉関係に強い関心を持って、交流及び援助を行っている。

合同例会後、道立福祉村で記念植樹をさせて頂いた。施設長の本庄会員の御案内で施設の様子を見学させて頂いたが、脳性麻痺による障害者の方々の手厚く介護されて障害と戦っていることに感動した。



地区会員増強研修セミナー報告



会員増強委員会

委員長 佐藤 秀雄(千歳PG)

平成16年8月21日(土)12時から16時30分まで北海道医師会館に於、地区会員増強研修セミナーを開催した。出席者は、RI会員組織コーディネーターの高橋文夫氏(98-99年度のPG、山形RC)、遠藤秀雄ガバナー、伊藤長英地区研修リーダー、地区増強委員の各ガバナー補佐、各クラブから会員増強委員長が参加し総勢80名のセミナーとなった。

高橋コーディネーターからは世界的にも会員が減少傾向にある。昨年RIの退会者約8千人であり、その内、実に4千人が日本のロータリアンで占められていると報告された。日本では女性会員が増えているが、もっと女性会員を増やす努力をすべきだと云われた。何故なら女性会員は入会したら余程でない限り退会しない、だから女性会員を増やすべきだと強調された。日本のロータリアンは1996-97年度をピークに会員数を減らしてきた。多い年度は1年間で5千人もの会員が退会をしている。昨年度は3千強の退会を見ている。私は最大の原因は経済不況だと思う。何故ならば一昨年まで毎年5千人近くの会員が退会していたが、昨

年は本州において会員減少に歯止めがかかったように思う。景気が回復してきたからである。北海道経済は未だ真っ暗なトンネルから抜け出していない。従って会員の減少に歯止めがかからない。不況だからと言って会員増強を疎かには出来ない。さすれば増強に如何なる手立てがあるのか。増強はこれだ、こうすべきだと言う強力な方法は存在しない。ただ云える事は時のリーダー達が熱意と情熱をもって新会員を発掘するに有る。それに入会された会員を徹底的に教育することである。勿論クラブのレベルアップの為に全会員のロータリー研修は必須である。

最後に質疑応答に入り会場から各クラブを法人化し責任の所在を明らかにすべきだとの意見、ついで世代間のコミュニケーションが阻害されている、例えば長老といわれる人達と若い世代との調和が上手くいかない。又、増強と同等に退会防止も重要だ、RCは誰のために存在しているかを認識しなければならない、週1回の例会を月2回にすべきだ、年会費軽減も必要との意見。新しく入会してもらうべく勧誘に行ったが断れたとの意見。RC創立12年目にして創立時勧誘し断られた新人が入会してくれた、少人数のクラブだが男女の差なく活動している等々の意見があった。

熱心にそして真摯にセミナーに参加していただいた方々に感謝申し上げ報告とする。



10月は職業奉仕月間です



職業奉仕月間にちなんで

職業奉仕委員会

委員長 富岡 公治 (札幌西北)

1. ロータリー創立の原点であり基礎的根幹である職業奉仕
ロータリーの創業者であるポール・ハリスのロータリー
創立の動機は、異なる業種の実業家と職業人の交際と
相互扶助の輪を形成することでした。

2. ロータリーにおける職業奉仕 (Vocational Service)
ロータリーにおける職業奉仕とは、ロータリアン以外
の人たちに“ロータリーの心”を分かちつことであると
言われています。

つまり自らの職業を通じて地域社会の人々や世界
の人々との間に善意と友情溢れた関係を創ろうと言うのが
ロータリーの職業奉仕と解釈されています。

次にロータリーは実践運動であると言われていま
す。ロータリーの哲学は単に主観的なものであつてはな
らず、それを客観的な行動に移さなければならないと提
唱されています。

3. 職業奉仕の理念の誕生

「ロータリーは決して宗教でもなければその代用物
でもない。それは古くから存在する一道德観念の現代生
活における、ことに実業職業生活における実践に他なら
ないのである」これはポール・ハリスの『ロータリーの理
想と友愛』の一節であります。

初期のロータリーは相互扶助をいう会員同士の知己
の追及であったことは否定できません。が、時をおくこ
となく、相互扶助の制度に反省が起こります。

ハリスは「相互扶助の観念は一般的奉仕の観念に世
を譲った」と表現しています。

この相互扶助の制度にロータリーの奉仕の原点、な
かなく、職業奉仕の原点があると考えます。

4. ロータリーにおける職業倫理

1905年ロータリー創立以来、ロータリーは常に高い
職業倫理による職業奉仕理念を根幹としてきました。

「ロータリーの綱領」では、事業及び専門職務の道
徳的水準を高めること、あらゆる有用な業務は尊重され
べきであるという認識を深めること、そしてロータリア
ン各自が業務を通じて社会に奉仕するために、その業務
を品位あらしめることを呼びかけています。

1910年に開催された第1回ロータリー連合大会では、

シエルドンが作成したロータリーの標語の「最もよく奉
仕する者、最も多く報いられる」が提唱され、後にロー
タリー標語として定められ最も良く知られているロータ
リー標語です。

1943年国際ロータリー理事会はハーバトテラの作
成した「四つのテスト」を職業奉仕の理念の公式要素と
定めることを決議し、これによってロータリアンは職業
奉仕の目標に達するための基礎基盤を得たといえます。

「四つのテスト」は個人や企業の行為が真実、公平さ、
親善、品位あるものかを評価する際の指標をロータリア
ンに提供しています。

5. ロータリーの公式標語「He Profits Most Who Serves
Best」「最もよく奉仕する者、最もよく報いられる」の
最近の動向

平成15年4月25日札幌RC、札幌南RC、札幌南
RC、札幌あけぼのRC、4クラブ共催の例会にて、時の
ラタクルRI会長は、板橋RI理事をはじめ、アジアの
諸理事のRI理事会における献身的な努力で上記標語が
残るに至ったことを明白かつ切実に卓話で話をしており
ます。

ポール・ハリスをはじめとするロータリー創始者の理
念は確固として永遠に守り抜かなければなりません。

6. 今年度の遠藤秀雄ガバナーは各クラブ公式訪問スピー
チにおいて、本年度のアナハイムのガバナー研修におい
てラタクルRI元会長とグレン・E・エステス現RI会
長がロータリー創立100周年の今年こそロータリー創立
の原点に立ち返り、職業奉仕の理念をロータリーの根幹
として高く掲げなければならないと強調している旨語ら
れました。

第2510地区の当地区においても各クラブの会員数減
少が重大問題となっていますが、職業奉仕の理念を高く
掲げることによってロータリーの活動を広く宣伝し、ロ
ータリーの活力をより大きくすべきものと考えます。

7. 10月ロータリー職業奉仕月間

10月はロータリーの職業奉仕強調月間です。
地区内各クラブが職業奉仕について語り合い強調してい
ただくことを心より希望致します。

「職業奉仕」よ、永遠なれ。

職業奉仕委員会

カウンセラー 石垣博美 (札幌セントラル, P G)



(1) モットーの論争

ロータリーには2つの大きな公式標語がある。

1つは「Service above the self」(超我の奉仕)であり、もう1つは「He profits most who serves best」(最もよくサービスするものは、最も多く報われる)というものである。2つともロータリーの蒼創記に生まれた格言であり、それぞれに美しい。

ところでこの第1のモットーは、一見して明らかに利己主義よりも利他主義を強調しているので明快である。しかし、もう1つの方は反対に、自分にとって最も多くのProfitをもたらすものとする精神的利己主義がある。なぜならば、物質的・金銭的に利他的行為を提供し、その見返りに他者の喜ぶ姿をみて自己が投入したコストを顧みることなく、自己の精神的ダンディズムをみたすことは、「社会的動物」としての基本的欲望の1つであろう。

その意味から、上述の2つの標語が唱えているポイントは、人間の利己・利他の衝動の「自己統一」のかたちとして「補完的關係」と見ることができるといえる。

私は、このような「2面性」「両義性」の展開のなかに、ロータリー哲学の「柔層性」があり、この哲学体形の根幹を示すものと信じているが、この点の詳細については別稿にゆずる。

(2) なぜ今、職業奉仕か

ところで今、日米のロータリーが争っている論点は、こうしたロータリー哲学の基本の問題ではない。第2の「Profit」についてである。というのも、ロータリー草創記以来この人間集団の「金看板」(道下俊一 P G のディスカッションペーパー、これを以下 DP と書く、2003年)として愛唱されたこのモットーが1950年(デトロイト)の世界大会で正式標語となったのに、それ以後今日までのおよそ半世紀は「国際奉仕」の華やかさに圧倒され、論ぜられることが少なくなった。

(橋本讓 P G・倉敷の DP、2004年)

のみならず、3年毎の「規定審議会」ではここ20年間くらいは、回を重ねるごとにこの第2モットーを廃止せんとする動きが強くなってきた。それを受けて日本のロータリーは、職業奉仕の復権をめざして、昨年11月のゾーン研究会では道下俊一が DP を発表し、ついで今年5月大阪世界大会では橋本讓が「Let's think better of our Motto」の DP を読んだ。6月にシカゴで開かれた「ロータリー憲法改正会議」も我々日本からの代表団は、田中毅(兵庫)黒田正宏(八戸南)の用意周到なインストラクションが、この会議での日本チームの活発な発言を引き出した。今までにはみられなかった日本代表議員たちの発言力に、アメリカ人もびっくりしたのではな

かったかと思う。

ともあれ、今回の規定審議会で、日本は我々の立場を強く訴え、あの第2モットーを廃絶させようとする欧米の動きに歯止めをかけることに大成功をおさめた。ひとえに菅生 R I 理事および日本ロータリー上層部の方々による指導的オリエンテーションの賜であった。といて、一言いわせていただければ、3年後の同会議(たぶんシカゴで開催される)に向けての準備を新規の戦略戦術に重点をおいたオリエンテーションを含めて進める必要がある。

(ガバナー月信9月号、2004、拙稿シカゴ・レポート参照)

(3) シェルドンか、コリンズか。

我々地区代表議員がシカゴへ出かける前の、オリエンテーションのある席上で、菅生 R I 理事は、「シェルドンの言葉のほうを第1標語にしたほうがよい」と熱っぽく述べたことがある。これは大変すぐれた見識ではなからうか。久しぶりに心に響く言葉を聞いた気がした。そこで以下に現在までのところ私の到達した一つの仮説を述べる。ただし、あくまで私個人の体験にもとづく感覚的な意見であることをご承知いただきたい。

1912年頃ベン・コリンズは最初「Service not self」という標語を提案したらしい。後に「Service above self」に改められ、今日まで日本では「超我の奉仕」の訳で「第1モットー」とされてきた。確かに、この言葉は堂々たる博愛主義の表現であり、時空を超えるもので、普遍的である。したがって古今東西、ほとんどの道徳的教訓でうたわれており、人々に称賛されてきた。それはひたすら私利私欲を排し、世のため、人々のため、さらには国家のため、人類のために奉仕する人間像をすずめる。しかしながら、このような行為は万人が真似のできる行為ではない。具体的イメージとしてたとえば「雨ニモマケズ」の詩人、宮沢賢治のような人を見てみよう。「ソウユウモノニワタシハナリタイ」とされている人間とは、私欲物欲をはなれ、他人の身の上を心配し、奉仕を生きがいとする人間のことである。このような人間になることは、至難の業である。といっても勿論、我々ロータリアンはこの様な杓子定規の端落の解釈でこの命題を受け取っているのではない。高い理想として愛誦しているものであろう。ただこのような教えは、ロータリーに限らないのであって、その点、第2スローガンと決定的に違うのである。

標語の第1が「ギブ」(奉仕によって他に与えるもの)を中心に考えているのに対して、第2のそれは「テイク」(受けとるもの)が中心だ。受けとる「プロフィット」が問題だ。その中身は金銭的・物質的なものか。それとも精神的なものか。それが問題だ。しかし、ここでシェルドンがこの標語にどのよ

うな意味をこめていたのかの詮索はやらないことにしよう。なぜなら、もともとこの命題は多義的であって、あいまいだ。したがって、イギリス人がいうように、「このグローバリティの時代にこんな悠長なことはいっておれない」と昨今の世界的なビジネス界の厳しさからの反対も十分理解できるだろう。また、経済学の理論モデルの「効用や利潤の最大化モデル」からみても理解不能である。

だがしかし、上の「プロフィット」(利潤)を広義に拡大解釈して「精神的なもの」をも含めて考えてみると、この命題は美しく甦ってくる。

ポール・ハリスは述べている。「人が漠然と考えていたことを、Sheldonは明確にしたのである。すなわち、ビジネスの成功は非情冷酷な貪欲や私利私欲の根性によるものではなく、サービスの法則が適用されることの結果である。...1908年のある夕方、行きつけの床屋から出てきたシェルドンの頭の中には、“He profits most who serves the best”という言葉が浮んでいた。これはあまりに通俗的ではないかと難ずる人がいる。また、ここで“profit”といっているのは物質的なものか、精神的なものか、問題にする人も多い。が、しかし私は、シェルドンは精神的なものに主眼をおいていたと信じている。」

シェルドンはミシガン大学卒業後、シカゴのビジネスを体験し、「サービス」という言葉で表現される企業行動に着目し、それが成功の鍵だと結論づけたといわれる。曰く、「価格を安くするだけがサービスではない。店主や従業員の顧客への態度や気配り、商品や業務にたいする責任、顧客に与える満足度と公平感など、これらのすべてがサービスである。これこそが企業の持続性・発展の唯一の方法である。」シェルドン・モデルの方が「サービス=奉仕」の精神的な報酬を尊重するもので、ロータリーに独特である。「超我」のコリンス・モデルはこれに比して、一般的であり、強力なアピール性はあるが、ユニークさが足りない。この点、シェルドン・モデルはきわめてロータリーならではの教訓だ。菅生説を支持する所以である。

(4)「ロータリー時代の再生」

ポール・ハリスは「ロータリーの時代」という本を書いた。それからおよそ100年たった今、再び「ロータリーの時代」が強力によみがえってきたと思われる。

具体的にそれは今後予想される職業イメージの変化から生じてくるようにみえる。明白なことは、これまで100年続いた工場労働、それに伴う組織的な事務労働が大幅にリストラされる新時代に入ったことである。代わって一方には知的職業、他方にはサービスにつながる技能的・技芸的な職業が増大するだろう。いずれも本質的に階層的組織(伝統的なピラミッド型の職務構造)には、なじまない。年功序列にはもろろん、労働時間の長さでは評価できないような仕事である。具体的にいえば、科学・技術やそれを支える基礎科学、法務や金融、デザインからなる知的職業については将来の繁栄がすでに予告されている。注目すべきは対人サービスの分野であって、余暇や娯楽、介護や看護、流通や運輸など、膨大な

領域にまたがる職業も成長を約束されている。さらに、医療や教育、各種の顧問、相談室など知的職業の一部もサービスの性格を帯びるだろう。

こうみえてくると、明らかにこれからの日本社会では(アメリカもそうだが)「プロフェッショナリズム」が尊重される時代へと変わってゆくのである。IT革命とグローバリティ化の波がじかに家庭の茶の間に入りこんできた。21世紀の混沌が社会生活のすべてに変化をもたらしている。このようなポスト工業化社会になると、ボランティアとしてのサービス、たとえばロータリーが贈与として行うサービスが、どんどん産業化される。またはNPO化されたりする。そうしたサービスの社会的需要はボランティア側からも、産業としての生産面から開発されるが、私の個人的体験では前者がより大きな比重をしめるのではないかと思われる。いずれにせよ、産業的サービスと奉仕としてのサービスの中間的な営みの増大が、現在かなり広範な職業分野で起きているのではなからうか。

さてこうなると、サービス産業のサービスの分野でも単なる等価交換にとどまらず、消費者への一層の気配りが要望されるようになり、いわば贈与の性格が加味されるようになる。その見返りは評価であり、名誉であり、そして友情であろう。とするとそれは、昔、「天職」として敬われた近代以前の医療や教職に似た仕事であるだろう。そしてそれは、ロータリーの求める質の高い、そして品格を向上させる職業奉仕の姿にちがいない。高齢少子化と女性の社会進出と相俟って、こうした「天職」の領域は益々、広まってゆくのではないだろうか。いよいよ21世紀はロータリーの出番の時代になってきた。

(5)ロータリー-日米戦争

以上の結びとして、私はこれまでのところ第2のスローガンは第1とすべきだと考えている。職業倫理において精神的なるものを強調する方がロータリー奉仕の精神にふさわしいからだ。アメリカのロータリアンはそのシェルドンの言葉は、アメリカの科学主義、合理主義からみて受け入れられないという。ひと昔前まで続いていた「日米貿易摩擦」に似ている。

しかし今度の「審議会」で、たまたまアリゾナのPG、フィリップ・シルバースと一緒にあった。永年の友人なので、私たちの立場に同調してくれた。奥さんのカサリンも、“Rotary is not all about money”といってくれた。また、これまた偶然のことだが、オーストラリアのメルボルンから来ていたIan Knightも同調してくれた。さらにまた、ロータリーの会長の標語には、精神をうたうものが多い。カリフォルニアのR・キングは、数年まえ、“Mankind is our business”といった。私だけだろうか。これにはしびれた。なぜなら、このことばのなかの“ビジネス”には精神の高さを競えといわんばかりの勢いを感じたからである。アングロサクソンのロータリアンのなかに我々日本ロータリアンの「エトス」を理解してくれる人が少なくない。

「職業奉仕」よ。永遠なれ。職業倫理とは何ぞや。職業奉仕とは何ぞや。大いなる論争が地区内のクラブでわきおこることを期待する。

(2004, 9月)

10月は米山月間です



米山月間によせて

米山記念奨学委員会

委員長 竹原 巖 (札幌北)

10月はロータリーの職業奉仕に関する特別月間であると同時に、米山に関する月間でもあります。日本ロータリーの独自の奉仕活動である米山奨学事業について、より多くのロータリアンの方々に理解を深めて頂くために、1998年より10月を米山月間と定められました。各クラブにおいても米山に関する活動をこの期間に集中的に実施することが多いと思われます。地区委員会としてもこの機会に、会員多くの皆様に奨学事業の意義や目的についてご理解を頂き、更なるご協力をいただきたいと思います。

(財)ロータリー米山記念奨学会は、勉学・研究を志して日本に留学している外国人に対し、国際理解と親善を深めるために、日本の全ロータリアンの寄付金を財源として、奨学金を支給援助する事業規模と採用数において最大の奨学団体です。

(1) 沿革と変遷

1952年12月 日本ロータリーの創始者である米山梅吉氏の功績を記して、東京ロータリークラブの当時の会長である古沢丈作氏の発案により、1952年に米山奨学制度を設定、1953年より募金を開始し「米山基金」をスタートさせる。東京RC会員並びに関係会社より募金された260万円によって、海外から大学院過程の学生2名に2年間奨学金を支給し、勉学と国際理解の促進に寄与することとする。

1953年9月 奨学生の第1号であるタイ国出身のソムチャード君が来日する。

1956年10月 第60地区および第62地区の年次大会で、米山基金を地区ないクラブの共同事業として取り上げることとした。

1957年9月 国内全クラブの合同事業として「ロータリー米山奨学委員会」が結成され、

全国的な組織となる。その後“月に煙草一箱を節約して”という合言葉によって、会員一人あたり月額50円の寄付金を募る運動がスタートする。

1958年4月 「ロータリー米山奨学委員会」として、全国の大学より8名の奨学生を採用する。

1959年2月 世話クラブ制度を決定する。

1960年1月 会の名称を「ロータリー米山記念奨学会」と改称する。

1967年7月 財団法人ロータリー米山記念奨学会(基本金3千万円)の設立が許可される。
奨学生 6カ国 59名

1971年2月 米山カウンセラー制度が導入される。

1975年8月 米山週間を4月22日より28日までとする。

1978年10月 米山奨学会への寄付金に対して免税措置の認可が下りる。

1983年8月 10月を米山月間とする。関東に元米山奨学生が組織する「米山校友会」が設立される。

1998年10月 米山奨学生の出身地をロータリークラブ所在国にかかわらず、すべての国・地域に拡大。1999年4月採用からロータリークラブの所在有無による国籍別の資格制限がなくなる。

2001年10月 指定校・大学推薦制度で奨学生募集を開始する。

2001年11月 留学生受け入れ制度100年の記念にあたり、日本政府から留学生交流功労団体として表彰を受ける。

2004年7月 2004学年度 奨学生46カ国 1002名
累計奨学生101カ国 12206名

(2) 目的および意義

米山奨学会は、世界中の国・地域より勉学または研究のために来日している外国人留学生に対して奨学金を支給し、彼らの留学の目的を援助するとともに、国際理解と親善に寄与することを目的としております。

政府の奨学金を受給できる国費留学生は限られており、残りの大部分は私費留学生です。これら前途有為の学生に対して援助の手を差し伸べるのが当奨学会の任務です。

在日の留学生援助団体は政府のほか、地方自治体、民間の団体など200を超えるものがあるが、そのなかにあって最大の規模と、実績と信頼を受けているのがロータリー米山記念奨学会です。

(3) 特色～世話クラブとカウンセラー制度

米山奨学金には、奨学金による経済的支援だけでなく、ロータリー・クラブ独自の世話クラブとカウンセラー制度による心の通った支援があります。

世話クラブ

日本には約2,300のロータリークラブがあります。そのなかのいくつかのクラブが奨学生の世話クラブ

となります。米山奨学生は世話クラブの例会に出席し、ロータリアンとの心のふれあいを通して、国際文化交流および相互理解を深め、ロータリーの奉仕の心をともに学びます。このような点から米山奨学生は、世話クラブの例会に出席し積極的にロータリアンとの交流を深める努力が必要とされます。

カウンセラー制度

世話クラブのロータリアンのなかから、奨学生のカウンセラーとして最も適任と思われる方を選任していただき、心の通ったお世話をさせていただきます。カウンセラーは奨学生の個人的なケアにあたり、心と行動を通じて奨学生に接していただきますが、米山奨学事業の成否はカウンセラーの役割にかかっているといわれるほど責任は重大です。

寄付金の実情と財政状況・寄付金の使途・減員となる次年度の奨学生採用・表彰制度変更等々、まだまだお知らせしたい項目がたくさんありますが、限られた紙面ですので、次の機会を与您いただきお伝えいたします。

11月はロータリー財団月間です

来月、11月はロータリー財団月間です。ロータリー財団のプログラムについて、会員皆様のご理解とご協力をより一層いただけるよう、各クラブにおいて地区委員や財団学友等の卓話を例会に取り入れていただけることを希望しております。

ロータリー財団プログラムへのご質問や卓話希望については、下記までお気軽にお問い合わせ下さい。

ガバナー事務所

Tel 0143-82-2510 Fax 0143-82-2512

E-mail : keiai.hp.rc@triton.ocn.ne.jp

ロータリー財団委員会

委員長 遠藤 正之

Tel 011-821-4011 Fax 011-821-9936

増進担当 大村 孝男

Tel 0123-28-8180 Fax 0123-28-8150

E-mail:ohmura.takao@mf.m-pharma.co.jp

国際親善奨学金委員会 瀧川 哲夫

Tel&Fax 011-706-4151

E-mail : takigawa@let.hokudai.ac.jp

G S E 委員会 山名 善久

Tel 011-662-5334 Fax 011-662-5325

E-mail : y7yamana@coral.ocn.ne.jp

財団学友委員会 山崎 晴嘉

Tel 011-709-7008 Fax 011-709-7009

E-mail : as-yama@jeans.ocn.ne.jp

中島 勉

Tel 011-833-0541 Fax 011-833-0544

E-mail : nakacorp@tky2.3web.ne.jp

補助金委員会 伏木 忠了

Tel 011-272-3777 Fax 011-272-3912

E-mail : kdsk-212@vega.ocn.ne.jp



米山奨学生学友会（北海道）のこと

米山学友会（北海道）

会長 陳 省 仁

米山奨学生学友会（北海道）は1998年12月14日設立され、「元・現奨学生間並びにロータリアン間の親睦を深め、財団法人ロータリー米山記念奨学会の事業の発展に寄与し、もって国際親善及び世界の平和に寄与する」ことを目的とした会である。米山奨学生学友会（北海道）において、今年もたくさんの学友やロータリアンの方と交流し学習できた。個人として、色々学ばせて頂き感謝しております。

2003年度の活動は2003年12月初旬札幌ロイヤルホテルで開催した定期総会で始まった。総会後の懇親会は学友18名とロータリアン9名のご参加で和やかな雰囲気の中で交流を楽しみました。総会と懇親会の中で、室蘭地区からの学友ギリ・ラムさん及び、ン・ケアンエンさんから家族懇親会を是非室蘭や登別で開催したい旨の申し入れがありました。

このご提案に対して、役員一同と学友委員会の皆様も賛成して下さったのでほとんどその場で決定いたしました。その後、両氏及び室蘭地区のロータリアンの皆様の奔走と多大な努力によって、2004年6月5日、登別グランドホテルで盛大な家族懇親会を開くことができました。学友及びその御家族25名とロータリアン30名のご参加でした。当日、学友のお二人はもとより、室蘭東RCを始め、第9グループ5クラブのみなさん22名のご参加とご支援のお陰で、とても有意義な親善と国際交流ができました。

他の学友会の活動として、ライラ・セミナーや地区研修セミナーなどの参加と学友会便りの発行である。これからも、ロータリアンの皆様のご指導とご協力を得ながら、すばらしい交流ができるように願っています。

地区委員会

活動報告

2004 - 2005年度 R I第2510地区第7.8.9.12グループ
「社会奉仕、家庭奉仕、子ども奉仕活動に
関する3委員会合同の意見交換会」開催



第7.8.9.12グループ担当 社会奉仕委員会
委員 菊地 芳彦(苫小牧北)

表記「意見交換会」が一昨年、昨年に引き続き本年度も地区社会奉仕委員所属の苫小牧北RCをホストとして7月17日(土)PM2時~5時苫小牧グランドホテル・ニュー王子に於いて開催されました。当日は公式訪問中ご多忙の遠藤秀雄地区ガバナーをはじめとして伊藤長英PG、第8.9.12グループガバナー補佐、地区3委員会委員長及び委員、そして今回参加対象の第7.8.9.12グループ合計21RCのうち20RCの社会奉仕委員長及び関連委員会委員、会長、幹事の方々総数44名の出席でした。尚、この内27名の方々が「意見交換会」終了後の懇親会に出席されました。

この「意見交換会」は年度はじめにロータリーの社会奉仕活動、特に新設されてまもない地区家庭奉仕委員会と子ども奉仕委員会に関し、地区委員会より意義及び活動状況を説明し、各クラブよりは昨年度までの活動報告と本年度の活動方針を発表することにより各クラブとの十分な質疑応答によって意志疎通を図るために、きわめて有意義な研修プログラムと考えられます。本年度の「意見交換会」開催予定は7月17日第7.8.9.12グループ苫小牧、7月31日第10.11グループ函館、8月7日第1.2.3グループ滝川、8月21日

第4.5.6グループ札幌となっており、今回が本年度シリーズの第1回目となっています。

今回の「意見交換会」の進行は地区社会奉仕委員である菊地が担当し、まずはじめに地区社会奉仕委員会対木正文委員長、2004 - 2005年度第2510地区遠藤秀雄ガバナー、第12グループ藤澤正昭ガバナー補佐、第8グループ蘇田又栄ガバナー補佐よりそれぞれ挨拶と各クラブへの協力の依頼が述べられました。尚、蘇田第8グループガバナー補佐は「近年のローテーションの子供達の悲惨な事件、家庭における親子関係の断絶と虐待という大きな社会問題をRCがいかに切り開いていくかという状況においてこの意見交換会がまことに時宜をえたものである」と述べられました。



次に地区委員会報告に移りました。

(1) 対木地区社会奉仕委員長より、効果的なロータリーの社会奉仕プロジェクトを生み出す要件とプロジェクトの例が述べられましたが、地区委員会の立場からはプロジェクトを考案できないが、個々のクラブの英知から生み出されたプロジェクトを成功に導くお手伝いをする事は可能である事を述べられました。最後に前述の「意見交換会」シリーズの日程 各クラブより提出された2003 - 2004年度実施の社会奉仕報告は約半数のクラブが写真を添付されており、「地区社会奉仕活動一覧表」として、まもなく完成、配布予定であること 各クラブで教育問題を取り上げること をすすめ、その場合は地区より積極的に支援したい事 新設されてまもない家庭奉仕委員会と子ども奉仕委員会活動はようやく各クラブの理解を得て、少しずつ活動が始まっているが、更なる努力を期待したい事を

述べられました。

(2) 地区子ども奉仕委員会米山道男委員長より、地区子ども奉仕委員会発足の経緯、小林ガバナー年度の札幌における予備的活動、佐藤ガバナー年度以降の状況について述べられました。以前の計画では佐藤ガバナー年度に於いて協力会員名簿完成と考えていましたがこれが大幅に遅れているため今年度は更に新規登録の受付、写真も付けてなるだけ良い物を作ろうと考えている事が述べられました。

具体的にはA票(授業協力)、B票(職業体験協力)として、72クラブ中1人以上の登録があるクラブ27、残り45クラブが未登録、現在登録ゼロクラブについては登録数を会員数の10%(A票5%B票5%)を目標として頂きたい。今後の活動計画は

1. 活動方針 会員が小中学校に出向いて授業をする
小中学生が会員の職場で職業体験をする

2. 活動計画 (a) 3委員会合同意見交換会」における会員への広報

- (b) 協力会員名簿作成: 第1冊を近日発行(現在登録会員: 授業協力144名、職業体験協力92名、合計236名) グループ別登録数第7グループ27名、第8グループ13名、第9グループ41名、第12グループ20名

第1冊発行後も将来の第2回発行に備え、引き続き登録要請

- (c) 教育委員会と小中学校への広報

- (d) 会員の授業と小中学生への職業体験実施

尚、実際に総合学習時間へのカリキュラム編入のためには、学校行事編成の関係上、本年12月までに担当委員が協力会員名簿を持参して、各地の教育委員会及び該当学校を訪問する。

3. 地区家庭奉仕委員会

大場公孝委員より、以下の要旨が述べられました。当地区には3年前に家庭奉仕委員会が日本で初めて発足しました。現代日本は社会的にも家庭的にも混乱のきわみにあり、児童虐待、家庭内暴力、不登校、ひきこもり、小中学生の犯罪が毎日のように報道されています。この状況において「家庭は社会の最小構成単位、家庭の平和なくして社会の平和なし」との基本概念に対して「ロータリアンは家庭から」みつめ直すべきであるという事が端緒となっています。当委員会発足後、勉強会、フォーラム等を重ねてきた結果、以下の実践メニューが推奨されました。

例会卓話: 自分達の家庭奉仕を見直すために
クラブフォーラム: 2月第2週の家族週間又は例会フォーラムで、家庭奉仕を取り上げて頂きたい

2003年2月28日、第4・5グループI Mパネルディスカッション「慈愛の種は家庭から - 家庭生活を豊かにする方法について」編集ビデオ(25分間)の活用 地区家庭奉仕委員会勉強会(今年度2回予定)

地区の各グループでワークショップ、シンポジウム実施

親業訓練セミナー開催(有料)

「家族奉仕」に関連して:(a) 家族参加例会、家族親睦会企画 (b) 社会奉仕事業に家族参加呼びかけ

尚、家族奉仕とはロータリアンは皆1つの家族であり、ロータリー関係者の家族を大事にしようという事、親睦委員会が対応、家庭奉仕は社会奉仕委員会が対応

以上の地区3委員会報告後、出席クラブよりそれぞれ前年度までの活動報告と本年度活動方針が報告されましたが、近日中に発行予定の「地区社会奉仕活動一覧表」に大部分記載されているため割愛します。なお、地区子ども奉仕委員会活動をすでに室蘭RC、登別RCで積極的に行なわれていますが、その他のクラブが

らも今年度の活動着手が表明されました。質疑応答では室蘭北RCで提唱のRACが実務担当会員の不在、4年生大学、2年生短大の2つの大学の学生が会員のため活動の一貫性が途切れるなどでRAC会員数激減に対し、伊藤PGより地区ローターアクト委員会への直接相談がすすめられました。これに関連して、米山委員長からRAC会員の30歳年齢制限に関わる問題点についても伊藤PGに質問がありました。

最後に米山子ども奉仕委員長と伊藤PGより、地区の新委員会活動に対しクラブで新委員会を作る必要はなく、既設の委員会で実際の活動をする事でよい事が述べられました。

第2800地区 インターアクトクラブと交流



インターアクト委員会
委員長 堀田昌資(札幌東)

第2800地区(山形県)のインターアクター14名は藤川享胤新世代委員会カウンセラーを団長として顧問教師7名、池田徳博新世代委員長、佐藤重勝インターアクト委員長と共に8月17日に札幌をおとずれ、当



交流会のーコマ、ケーキと飲み物で話がはずむ

2510地区のインターアクターと交流会を行いました。

当インターアクト委員会では夏休み期間になるため、北海高校のインターアクトクラブが中心となって準備を整えインターアクター33名、顧問教師2名、インターアクト委員長、副委員長2名が出席しました。15時30分頃から17時頃まで2800地区各校のインターアクトクラブの活動状況の紹介やその後の質疑応答も活発に行われアツと言う間の90分でした。2800地区では地域のお祭りでのボランティア、阪神淡路大震災慰霊用のろうそく造り、老人ホームの訪問などの地道な活動が紹介されました。2510地区からは北海高校が5年程前から続けている韓国木浦市にある「木浦共生園」との交流状況をスライドにより説明し、2800地区インターアクターの関心を集めていました。

また、お互いの質疑応答も活発に行われそれぞれの活動をさらに理解しあったり、方言についての質問が出て会場がドット沸くなどなごやかで楽しい交流会となりました。

2800地区のインターアクターは18日、札幌、小樽市内を見学後登別で宿泊されたため、当2510地区の遠藤秀雄ガバナー、伊奈昭夫代表幹事、上田博子幹事がホテルにメンバーを訪ね、歓迎の挨拶を交わされました。



登別グランドホテルに宿泊されたR12800地区の皆さんを、当地区遠藤秀雄ガバナー、伊奈昭夫、上田博子幹事が訪ねて親しく交流しました

家庭奉仕事業の紹介



家庭奉仕委員会
委員長 和田 壬 三(札幌南)

家庭奉仕委員会が、当地区に設置されてから三年目です。現在、我国の家族の関係が諸外国との対比において極めて異常であることは、日本教育研究所の数年間の数次にわたる各種アンケートの結果や、東洋大学の中里至正教授のアメリカ合衆国、トルコ共和国と日本の中高生に対するアンケート結果や、我国の離婚率の増加、100万人とも言われる膨大な数の引きこもり成人の存在、小中学校における12～13万人の登校拒否児の存在、幼少児の異常な犯罪行為の増加などといった社会現象に端的に表れている。

そんな中で、地区内各クラブ並に各グループ内で、如何にこの問題に取り組んでいただくかが当委員会の本年度の最大のテーマで、名案はないかと悩まされてきたところです。

社会奉仕連絡会や、地区協議会に於いて、問題提起をさせていただきましたが、順調に家庭経営をされてきたロータリアン各氏には、危機感が伝わり難かったようで、反応は今一つでした。

この度、新札幌ロータリークラブの子ども家庭奉仕委員長から、右記の活動方針をしめされて、こういった切り口でこの問題に取り組んでいただけることを知り、勇気づけられました。ご参考までにご照会申し上げます。

子ども家庭奉仕委員長を拝命して



子ども家庭奉仕委員会
委員長 清水 昭 子(新札幌)

ソクラテス、アリストテレス、プラトンの時代の教育とは、字の通り教え育てる教育であったようである、と教育者のお話を伺ったことがある。教育は子どもにある個性、能力を引き出し、伸ばし、将来の方向性を示し、生きる目的、人生の意味、価値、喜び、希望、勇気、人に対する信頼の仕方、神様の存在等を教えるはずのものだったと記憶している。

毎日のように報道されている子供たちを囲む教育状況が、いかに難しい問題を抱えているか。現代の教育には「育」が無いのかも知れない。子供の心を育み、子供の前途に本当に光を与えるには如何したら良いのか。今ここでもっと良く子供を見つめて、基礎的な躰を何とかしなければ大変なことになるであろう。私たち子供や孫を持つものにとって、今すぐ実行しなければならぬ事を検証する年にして行きたい。

偏った方向に走り続けている現代の幼児教育をもう一度問い直す必要があるのではないか。このような現状の中でも神様が与えてくださった一人ひとりの個性を生かし、その子らしく育てることを教育目標にしている札幌で最も歴史と伝統のある幼稚園で考察させて頂きたい。一年を通じてどのように育っていくかを共に学び遊ぶ機会を作りたい。

フランソワーズ・サガン女史は子供の上手な育て方というエッセーの中で、子供は愛されなければなりません、そこには信頼と自由が生まれるのですから、でも「愛する事」とは難しいことです。と書いていた気がする。私が長女を出産したとき、実家の母が親は過

去、わが身は現世、子は未来、後生大事にわが子を育てよ。子育ては2つ叱って3つ褒め5つ教えて人にせよ。と初孫の顔を見ながら教えてくれたことをすっかり忘れていた。その後子育てに翻弄されている私に、母は上記のことを話してくれ、今度は忘れないようにと注意された。しかしまた長い年月忘れていた。このたびのテーマに出会い、今は亡き母の言葉を改めて思い出し反省もしている。

この委員会は初めてスタートする委員会です。何故今、子ども家庭奉仕と命名しなければいけなかったかを私なりに考えてみることにする。自分の軸足をしっかりしておくためにも。スタート前の整理である。

私の家庭を振り返ったとき、主人にも子供達にも懺悔の気持ちでいっぱいである。子育ても妻としても精一杯頑張ってきたような気がするが、自己満足ではなかったのかと、自問自答することがある。主婦も母親も大好きで、私には向いていたと思う。しかし開業医の妻として、経営者として仕事をするようになった段階で、子どもも主人も24時間家庭に奉仕してくれる人がいなくなったことになる。いかに睡眠時間を短くして頑張っても所詮専業主婦にはかなわない。

開業の準備を始めてからは、中学3年、高校1年の子どもたちにとってそれまでとはあまりにも格差のある家庭生活に馴染むのは大変だったに違いない。学校から帰ると、手作りのおやつを食べながら子どもたちから幼稚園や学校での出来事を話してもらって時間が私にとって至福のときで、それが私たち親子の慣習だったのだから。

年齢的にも精神的にも若かった私は、三年間幼稚園に通わせるのが忍びなくて一年間だけ通園させた。とにかく子どもたちと一緒に過ごしたかった。今振り返ってみると十分に親を楽しませてくれた。あの時の数年間で一生分を味わわせてくれたのかもしれない、と最近思えるようになった(随分色々なことを子供たちと楽しんだように思う)。

息子が長じて医学生だったころ、うちの母親はきつ

い、一度も何々をしてあげるから医者になって、と言ってくれたことも無い、合格したらこれを買ってあげると言われた事も無い、成りたいなら力を貸してあげるというくらいで、友達の親のように鼻先に人参をぶら下げてくれたことは一度も無かったと、友達に言ったそうである。この程度の甘ったれの息子が今は2児の父親である。自分が幼い頃やってもらえなかった数々のこと、例えばボール投げ、公園の散歩等々を最大努力して息子たちに「させて」もらっている。

しかし最近の世の中の傾向として過保護と盲愛がまかり通っているのも事実である。勿論両極端の場合もあるが、我々の周囲で一番目に付きやすいのが過保護と盲愛かもしれない。私を含めての話である。

わが子の時には「育」を忘れてはならないと念じ続けてきたが、孫となると冷静に子供の心を育み子どもの前途に光を与えるにはどうしたらよいかと、私自身思い続けているであろうかと自問する日々である。

アーチャマ(私のこと)の子になりたいと事あるごとに訴える孫は確かに可愛い。目に入れても痛くないとはこのことなのだと気付いた。しかし母親にとってそのことがどんなに辛く悲しいことかも汲み取ってあげなければとも思っている。盲愛しない掟も作っている。

ひとつ、何事も初体験は親と体験してもらおう

ひとつ、子どもだけでお泊りさせない

ひとつ、M・Sまで送っていても必ず玄関で別れる

ひとつ、帰るときは姿が見えなくなるまで見送る

ひとつ、親の教育方針には口を出さない

しかし、4歳を迎えようとしている彼は悪いと分かかって悪さをすることがある。それを見つけたときは絶対に許さない。体罰は与えたことは無いが、膝に抱いて理由を聞くことにしている。泣いても許さないことにしている。一度だけ私から逃げようとした彼に、悪いことをしても怒らないアーチャマのほうがよいのか聞いたことがあった。孫は即座に、イヤ、怒ったほう

がいいと言って、自分から私の膝の上に戻ってきた。4歳未満であっても、事の善悪を理解していると確信している。

彼との最後の約束は決してうそを言わないということ（いつの日か破られるときがあるに違いない。しかし今の彼は「アーチャマは絶対うそは言わないんだ」と病院の職員や親類の人達に話したことがあったそうだ）

彼は最近内緒の意味を覚えたようである。これ内緒なのと前置きしたときは、私のほうからそのお話は聞かないよ、ということにしている。半年前には「内緒ってなあに」～こんな疑問を連発する子だったのに、いつの間にか成長しているようである。

「アーチャマは内緒も嫌なの？」と孫。「そーよ」と私。聞きたい気もするが我慢して「内緒なんでしょ、言っっては駄目よ」「ウン、わかった」といって首に抱きついてくる孫が可愛い。

人間の成長とは面白いものである。わが息子も小さなときトランプのウソを姉に教えられ、僕出来ないよと泣き出した子であったが、今は生きる知恵として少しのウソを立派に使いこなしているようである。

なんと大変な委員会だろうと思っていたが、私こそが今一度教育を考える必要があったのかもしれない。とにかく頑張ってみることにした。

<選考基準>

下記の選考基準で幼稚園を選ぶことにする。

- 1、札幌で一番古く歴史と伝統がある
- 2、創設以来キリスト教精神に基づく保育をしている
- 3、異年齢のクラス編成により少子化の現代において貴重な体験をさせている
- 4、新札幌R・Cと至近距離にあり交流しやすい

以上の理由から北光幼稚園で検証をし、園児と共に学び、遊びの中から何かを見い出して行きたい。

<活動基本方針>

- 1、幼稚園の先生にR・Cテーブルスピーチをしていただきたい。テーマは例えば「最近の幼稚園児について」「神の存在を子共の中に育むには」など。
- 2、私たちが園を訪問し園児と交流する。園児から歌を習い、私たちのロータリーソング（「手に手を」）を教えることから交流を深める。
- 3、小学生になったらエコノートの活用を依頼する（担当者から話す）
- 4、クリスマスには子供たちの好きな歌のCDかヒーリングのCDを送る。

<予算>

幼稚園の先生に対してのテーブルスピーチのお礼（10,000円）クリスマスプレゼント（30,000円）訪問時のお土産代（二回で10,000円）の合計50,000円。

米山評議員会に参加して



米山記念奨学委員会

委員長 竹原 巖（札幌北）

2004年度第1回目の米山理事会並びに評議員会が8月30日(月)に東京で開催されました。2510地区からは伊藤長英米山常務理事・遠藤秀雄ガバナー・塚原房樹ガバナーエレクト並びに地区委員長の竹原巖が出席いたしました。当日は台風の影響で九州や四国地区の委員の欠席が数人見られましたが、全国34地区から100名を越す方が集合し米山奨学事業に関する各議案の討議と承認がなされました。

米山評議員会は年度末の6月と新しい年度に入った8月の2回、国内34地区のガバナー・エレクト・委員長の102名が集合し開催されるものです。会議内容は年度の事業計画や予算について審議・承認が行われます。8月30日の評議員会は昼食後、会議に先立ち米山学友の林保順氏(2790地区学友会会長・(株)三菱総合研究所勤務)が奨学期間ならびに学友会を通じての活動とロータリーとの関わりについてのスピーチがありました。その後の会議では報告事項として 常務理事会で審議された10の案件 専門委員会(財務、学務・学友、広報)の委員の委嘱の件 文部科学省への事業計画・収支予算書提出の件 外部監査の件に関して報告がなされ、議案の審議では 評議員委嘱の件 2003年度第2回評議員会議事録承認の件 欠員となっていた理事選任の件 2003年度事業報告案承認の件 2003年度収支計算書・正味財産増減計算書・貸借対照表および財産目録承認の件 2004年度収支予算一部修正案の件 寄付行為一部変更の件が上程され質疑応答ののち承認されました。

質疑応答では、現行奨学金制度の抜本的見直し、募集選考における地区裁量枠設定への賛否について、大

学推薦制度における大学との連携強化、ロータリーの目的・使命を再確認して目標達成に一層の努力をするなど、地区の問題や事例を交えてさまざまのご意見が出されました。また、8月に中国で開催されたサッカーのアジアカップを発火点とする日中の市民感情問題に関しては、このような時だからこそ“ロータリーの寛容と信頼感”の精神で、米山奨学事業を推進することが大切であるとの声が会場から盛り上がりました。

会議終了後、米山事業「第2期米山奨学事業基礎調査～基礎調査から見てきたもの～」のフォーラムが予定されており、「みんなで考えよう...私たちの米山奨学事業」とのテーマでプレゼンテーションがあり、その後Aテーマ「事業使命・選考基準・奨学金額」、Bテーマ「地区裁量枠の可能性」、Cテーマ「世話クラブ・カウンセラー制度」、Dテーマ「米山奨学事業の運営」と4つのグループに分かれてディスカッションが行われた後、全体フォーラムがある予定でしたが、台風により交通機関に影響がでておりましたのでフォーラムを中止し早めの切り上げとなり私たち北海道から参加した4名も早めの飛行機に乗り換え無事帰ることが出来ました。

国際奉仕委員会からのご案内

求む！台湾 R I 3480地区台北北新ロータリー・クラブとの親善交流！

R I 3480地区台北北新 R C から当地区に下記のような友好クラブの斡旋要請が届きました。国際交流に関心をお持ちのクラブはガバナー事務所か地区国際奉仕委員会にご連絡ください。

記

趣旨：台北北新扶輪社（ロータリー・クラブ）は2002年5月に設立された会員数約30名（全員男性）の新しいクラブです。同クラブでは第2510地区の同規模のクラブとの友好・親善交流を切に希望しております。

国際奉仕委員会
委員長 橋本 信夫（札幌西）

会長：王友増氏
事務所：台北市中山北路2段26巷15号3F
Fax：(886)2-25813286
Tel：(886)2-25813019
例会日：毎週水曜12時15分～2時
例会場：台北市長安東路2段131之1号5F
台北水苺楼（レストラン）
要請者：第3480地区台北城北ロータリー・クラブ前会長
許廷璋氏
（台北北新 R C 創設責任者で親クラブ前会長）
Fax：(886)2-25147866
Tel：(886)2-26147584

第 1 回 補助金委員会報告

補助金委員会

委員長 伏木 忠了(札幌西)

と き : 2004年7月24日(土)

ところ : 北電力設備工事 3F 会議室

出席者 : 遠藤 秀雄 2004 - 2005ガバナー

遠藤 正之 財団委員長

塚原 房樹 2005 - 2006ガバナーエレクト

菅原 耕治 地区補助金監督委員長

高橋 恒夫 地区補助金監督委員

服部 隆志 補助金副委員長

浅野 元広 補助金委員

山口 登 補助金委員

朝倉 正人 補助金委員

伏木 忠了 補助金委員長

03 - 04年度活動報告

委員会の開催

下記の通り開催済み

開催日	出席人数	開催日	出席人数
第1回 H15.6.24	7人	第4回 H16.3.5	8人
第2回 H15.7.29	6人	第5回 H16.6.1	6人
第3回 H15.11.18	4人		

人道的補助金プログラム

1) 地区補助金

年度内に補助金を承認完了したプログラムは下記の通り

クラブ名	プロジェクトの内容	補助金	支払日
1・札幌西RC	ロータリアン及びその家族が1日里親となり、札幌育児園児約50名を札幌市円山公園に招待する。	139,200円	2003.10.30
2・白老RC	創立記念事業として「全員のオルガニスト大島彰コンサート」を開催し、中学生、高校生、一般市民、障害者を招待する。	550,000円	2003.10.30
3・恵庭RC	恵庭相撲協会とクラブが共催して秋祭りに相撲大会を実施する。	300,000円	2003.10.30
4・苫小牧東RC	苫小牧少年少女合唱団と苫小牧市民管弦楽団、苫小牧ウィンドアンサンブルの競演に障害者の方々を招待する。	500,000円	2004.01.27
5・苫小牧北RC	北海道ペアーズ(下肢に障害を持つ人達のアイスホッケーチーム)支援活動。	200,000円	2004.03.12
6・札幌手稲RC	青少年の健全な育成の一助として中学校スポーツ大会を実施。	150,000円	2004.04.30
7・七飯RC	健康について親子が知識を深めるため親子で栄養・健康指導を受ける機会を提供。	149,000円	2004.05.19
8・新札幌RC	タイ国パベナ財団パベナ・ホンサクン氏を招き子供を取り巻く環境悪化に対する基調講演を行い市民と共にフォーラムを実施。	250,000円	2004.05.19
9・札幌清田RC	言語障害児のための「ことば学級」を私立清田小学校に開級し、教材の寄贈とロータリアンが職業に関連した様々な活動。	100,000円	2004.05.19
10・長沼RC	クラブ主催による長沼国際交流フェスティバルの実施。	200,000円	2004.06.28
11・札幌モーニングRC	バイオブロック植樹の地域運動に市民と共に参加し、新しい植樹法の普及に努める。	500,000円	2004.06.30
合 計 11件		3,038,200円	

2) 個人向け補助金

補助金申請の前提となるボランティア登録4名済み

3) 同額補助金 (MG)

2ヶ国以上にあるロータリークラブが協力しあって行う人道的プロジェクト

Project ID MG0451098

タイの少年の家にベッド、シーツ、カヤ等を援助

受領国 R1 . 3340 khon kaen RC		100ドル
援助国 R1 . 2620 長泉RC		2,300ドル
R1 . 2510 千歳セントラルRC		1,600ドル
	計	4,000ドル
ロータリー財団補助金 (W・F) より		2,000ドル
	計	6,000ドル

Project ID MG0451403

トルコのkuvayi Milliye小学校に教室設備等に援助

受領国 R1 . 2420 Istanbul-TaksimRC		3,000ドル
援助国 R1 . 2510 札幌セントラルRC		2,000ドル
(地区W・C・S委員会補助1600ドル札幌セントラルRC400ドル)		
	計	5,000ドル
ロータリー財団補助金 (W・F) より		2,500ドル
	計	7,500ドル

会計報告及び監査報告

地区補助金監督委員長 菅原 耕治氏より監査報告

04 - 05年度活動計画

継続事業について (補助金申請の審査)

1・砂川RC	砂川市の障害学級の子供たちと保護者を対象にふれあい体験学習実施。	100,000円
2・江別西RC	北海道友愛会 (老人ホーム) の夏祭り実施・あけぼの幼稚園のバザー参加。	100,000円
3・岩見沢東RC	地元小学校のサッカー協会応援としてノート、ドリンク、優勝旗、トロフィーなどの協力。	76,800円
4・千歳セントラルRC	パークゴルフ大会事業。野球大会ボランティア事業。	150,000円
5・北広島RC	地元青少年の為の管弦楽コンサート開催。 札幌フィルハーモニーによる「きたひろコンサート」実施。	100,000円
6・函館五稜郭RC	函館市内小学校に対する花壇整備用具の寄贈。	200,000円
7・札幌東RC	余市・銀山学園 (知的障害者施設) への支援。 コーラスグループ「イーストハーモニー」が慰問し、コーラスと演奏を行う。	200,000円
8・静内RC	子供と老人に対する交通安全教室を開催、交通安全啓蒙看板を設置。	150,000円
合 計		1,076,800円

新規補助金の申込審査基準について

- 1、3年前、各クラブからの年次寄付の額を参考に。
- 2、地区会員の3分の2以上から賛同を得られるプロジェクト。
- 3、クラブ負担・補助金の割合・会員の奉仕度合。
- 4、クラブの周年事業も (内容により) 加える。
- 5、継続事業か、単年事業かも参考に。
- 6、補助金の対象には (寄付行為・賞品の提供などは不可)
- 7、不適格プロジェクトは以下
 - 役所や他団体に現金を寄贈し請け負ってもらう事業。 講師への謝礼。
 - 優勝の賞金などは不可。 入場料をとる事業は不可。
 - ロータリアンの弁当などは不可。

その他

各クラブより財団についての卓話の要請のあった場合財団委員長に報告、誰が担当するか指示を受ける。

(財)ロータリー米山記念奨学会 2004年9月9日発行

ハイライトよねやま 55

1. 寄付金速報～10月の米山月間に向けて

8月までの寄付金は、前年同期と比べ3.5%減、約1千百万円の減少でした。普通寄付金が0.5%減、特別寄付金が9.4%減です。今月の傾向として、ガバナー公式訪問記念寄付【2590地区・2750地区】とクラブ米山奨学金の寄付金納入件数が増えたことなどから、前月の特別寄付金の落ち込み（前年同期比19.1%減）は少し回復しましたが、まだ楽観はできない状況です。

特別寄付金は、例年10月から12月にかけてピークを迎えます。ぜひ10月の米山月間には、新しい資料を活用し、事業への理解を深めていただきますようよろしくお願いいたします。

2. 2004年度第1回理事会・評議員会報告～真摯な議論で今後の米山奨学事業の在り方を問う

2004年度最初の理事会・評議員会合同会議が、8月30日に東京・品川のホテルパシフィック東京で開かれました。台風17号の影響が心配されましたが、陪席者1名を含む97名の出席を得て、予定通り理事会・評議員会を開くことができました。主な議事は、2003年度事業・決算報告、2004年度予算一部修正、評議員の委嘱、寄付行為の一部変更などでした。

理事会・評議員会後に予定していた第2回フォーラムは、残念ながら台風接近のため中止となりましたが、質疑応答の時間を利用して、米山奨学事業全般に関する自由な意見交換と討議を行いました。各地区の理事・評議員からは、現行奨学金制度の抜本的見直し、募集・選考における地区裁量枠設定への賛否、大学推薦制度における大学との連携強化、ロータリーの目的・使命を再確認して目標達成に一層の努力をすることなど、地区の問題意識や事例を交えてさまざまな意見が挙げられました。また、8月に中国で開かれたアジア杯サッカーを発火点とする日中間の市民感情問題に対する意見では、このような時だからこそ“寛容と信頼感”をもって米山奨学事業を推進することの大切さを説く声が上ががり、米山奨学事業の意義を再確認する機会となりました。

開会の挨拶をする島津久厚理事長



(常務理事・事務局長 宮崎 幸雄)

3. 今年の目玉は「米山奨学事業・豆辞典」！～米山月間資料のご案内

ロータリー米山記念奨学会では、今年も各クラブでの米山月間プログラム用に、全国のロータリー・クラブに資料を配布いたします（9月中旬発送）。



今年の目玉は、全会員に配られる「米山奨学事業・豆辞典」。その名の通りのかわいいポケットサイズながら、財政状況・寄付金の使途、学友の活躍、制度改編における課題など、米山奨学事業の最新情報を満載しています。アンケート付きですので、皆さまの自由なご意見をぜひお聞かせください。なお、豆辞典の内容に合わせたプレゼンテーション用のパワーポイント（約10分）もご用意しています。ご希望の際には、米山奨学会事務局までご連絡ください。

4. 二胡の演奏と奨学生の人柄に心動かされて～第2630地区【岐阜・三重】寄付事例

先月の54号で紹介した第2630地区の二胡ミニコンサート卓話の続報が、藤田米山奨学委員長から寄せられました。岐阜南RCの例会で、米山奨学生・梁天任さんの演奏する二胡ミニコンサート卓話を行ったところ、終了後に寄付金を手渡して下さった方がいたそうです。藤田委員長も感激し、「感動させる演奏ができて、私の心も充足しています」と梁さんも感謝していたとのこと。早速、今回のご寄付をくださった尾木信蔵氏（岐阜南RC）にお話を伺いました。

寄付者の声

異国に来て一生懸命にあれだけの演奏してくれたことに心を動かされました。何よりも梁さんの真面目な人柄とひたむきさが伝わりました。良い奨学生を見つけきて、このような企画を実施した地区米山奨学委員会のご苦労も大変なものだと思います。国際親善は実は難しいことであって、人と人とのつながりは機会をとらえなければなりません。今回の卓話はその機会になりました。梁さんには、日中友好に大いに役立つことですので、今後もぜひ頑張ってもらいたいと思います。また会いましょう。いつでもクラブで歓迎します。

5. 米山月間に奨学生の卓話をどうぞ～各地区の創意工夫をご紹介します

米山奨学生とロータリアンを結ぶ重要な接点が「卓話」です。米山月間には、多くのクラブで奨学生や学友の卓話が行われます。米山奨学生にとっては、自国の文化を日本に紹介する貴重な機会であり、同時に、米山奨学生だからこそできる貢献の一つの形でもあります。地区でも米山奨学生の卓話を奨励・推進していますが、今回は、そのさまざまな工夫点をご紹介します。

全クラブに事前アンケートを実施：

地区によっては、米山月間のプログラムについて、事前にクラブにアンケートを取るなどして、希望を聞くところもあります。近隣に大学がなく世話クラブを受けられないなど、奨学生との接触が少ないクラブでも、奨学生や学友の卓話を地区に依頼することができます。

学友会との連携：

地区の学友会と連携して、卓話者を手配するケースもあります。学友会によっては、会長をはじめ、卓話ができる会員をリストアップして、米山月間の卓話の依頼に対応しています。

クラブ委員長や地区委員のプレゼンテーションに奨学生の卓話を組み合わせる：

多くのロータリアンの前に出て日本語で30分近くスピーチするのは、奨学生にとっても大変なことです。誰もが上手にできるとは限りません。そこで、まず、クラブ米山委員長や地区の米山委員が、月間用資料などを利用して米山奨学事業全般について説明し、その後、米山奨学生が身近な話題や研究テーマについて短めにスピーチするという方法もあります。

米山月間のプログラムをご検討中のクラブは、ぜひ一度、地区米山奨学委員会に相談してみたいかがでしょうか。ロータリー米山記念奨学会事務局でも、可能な限りの情報や資料をご提供できるよう努力いたしますので、お困りのことがあれば、ご遠慮なくお問い合わせください。

ロータリー米山記念奨学会ホームページでは「ハイライトよねやま」として最新ニュースをお伝えしています。月信等にご活用ください。ガバナー・理事・米山奨学委員長その他希望者にはe-mail等で配信しています。
<http://www.rotary-yoneyama.or.jp/>

(財)ロータリー米山記念奨学会編集担当：峯・野津・大庭
〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3 abc 会館ビル8階
Tel：03-3434-8681 Fax：03-3578-8281
E-mail：highlight@rotary-yoneyama.or.jp
URL：http://www.rotary-yoneyama.or.jp/

会員投稿

ある財団学友の結婚

於：ザルツブルグ

奥 貫 一 之 (札幌東)

2000年8月、シドニーオリンピックで高橋尚子が優勝したその日に藤兼裕子さんは財団奨学生としてイギリスへ出発しました。行く先はロンドン大学教育研究所（日本での大学院）で比較教育学の教室に籍を置き、世界各国から集った留学生達と共に学ぶことになりました。

そんな彼女を支えて下さったのが札幌東RCの顧問ロータリアン南部春生会員と、エドモントンロータリークラブの皆様で、例会出席をはじめ家庭への招待、小旅行へ連れて行って下さる等、親身のお世話にあずかり、彼女もロータリーの有難さを実感した様でした。彼女が「今の時代に生きた証」として高橋選手のオリンピックでの夢同様求めたのが「修士(MA)の資格をとりたい、出来ればPHDも」という夢でした。



2000年 - 2002年 財団奨学生 藤兼裕子さんと夫君阿部氏

主任教授の親切な御指導のおかげでほどなくしてMAは取得出来たのですが、PHDへの道は険しく財団奨学生の資格がある2年間を過ぎても見透しさ

え立たない中、彼女は自費で勉強を続ける決心をし、在留邦人への語学教師等、働きながら学びを継続いたしました。そんな中で知り合ったのが同じ志を持つ阿部真紀氏でお互いに励まし合って何とか夢を達成したいという誓いが今回の結婚につながりました。

(2004年8月10日挙式)

エドモントンRCの皆様はジェームス会長をはじめ家族も含めて9名がわざわざロンドンから来て下さり、彼女を祝福して下さいました。奨学生の資格がなくなってから2年が経つのに今尚、面倒を見て下さるロータリー魂への敬意と共に、彼女の努力、人徳を感じて感激いたしました。ロータリアン同志は初対面でもすぐに打ちとけ合い、10年の知己の様にされる幸せも体験しました。

これからも果てしなく広がる「新世代の皆さんの夢」にエールを送りつづけようという思いをあらたにしたひとときでした。



彼女をホストしたロンドン エドモントンRCのジェームス会長・ご家族の皆様



ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3 abc会館7F
TEL(03)3433-6456 FAX(03)3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>
開館 = 午前10時～午後5時 休館 = 土・日・祝祭日

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、1万9千余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。

クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

青少年委員会活動の実例

- | | |
|---|--|
| 「インターアクトの翼に寄せて」 D.2830 2004 47p
[申込先：ロータリー文庫] | 「青少年問題について」 今井鎮雄 2004 2p
(D.2680 地区協議会報告) |
| 「青少年に慈愛の種を播きましょう」 D.2650 2004
17p (IMパネルディスカッション)
[申込先：ロータリー文庫 (コピー)] | 「われわれは次の世代のために何ができるのか」
ジョイスS.津野田 2004 12p (D.2740地区大会ロー
タリーセミナー) [申込先：ロータリー文庫 (コピー)] |
| 「ロータリアン学校評議員 講師派遣 職場体験受入企業
リスト」 D.2530 2003 19p
[申込先：ロータリー文庫 (コピー)] | 「感性ということ 座談会 - 新世代の人作り - 」
佐藤千壽 2001 51p
[申込先：ロータリー文庫 (コピー)] |
| 「第9回ロータリー青少年指導者養成プログラム記録誌」
D.2830 [2004] 28p [申込先：ロータリー文庫] | 「子供に夢と感動を与えよう」 鳴海淳郎 1999 20p
[申込先：ロータリー文庫] |
| 「二〇〇四年鈴鹿市児童詩コンクール作品選集」
鈴鹿西R.C. 2004 58p [申込先：ロータリー文庫] | |

地区世界社会奉仕委員会からのお知らせ

地区世界社会奉仕事業申請書について

世界社会奉仕委員会
委員長 斎藤修弥(室蘭)

この度委員会事業の充実と円滑化を図るため、地区世界社会奉仕事業申請書を作成しました。各クラブには既に送付いたしております。

ご承知のように、地区世界社会奉仕事業は、原則として二つの国のロータリークラブの合意と共同作業により奉仕活動を行う事になっております。それだけにともすれば事業の進め方、申請方法につき不慣れな向きもあつたのではと拝察しております。

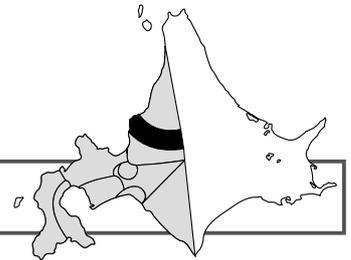
どうか事業を計画される各クラブにおかれましては、この申請書を活用していただき、判る範囲で結構ですので申請書にご記入の上、当委員会にお送りいただきたいと存じます。

皆様方のご協力により、世界各地に向けた事業を積極的に展開していきたいと思っておりますので、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

【申請書送付先】

地区世界社会奉仕委員会
(2004～2005年度ガバナー事務所気付)
〒059-0034 登別市鷺別町2丁目31番地1
医療法人社団友愛会 患愛病院2階
TEL (0143) 82-2510 FAX (0143) 82-2512
E-mail : keiai.hp.rc@triton.ocn.ne.jp

こんにちは！
第2グループです



第2グループ ガバナー補佐 鈴木忠男
(滝川)

駒大苫小牧につづけ！めざせ甲子園！

～ロータリー100周年 全国ロータリー野球大会地区予選～

2004 - 2005第2510地区親睦野球大会
ホスト滝川RC 大会実行委員会
委員長 中川一郎(滝川)

8月22日、甲子園球場で北海道代表の駒大苫小牧が愛媛代表済美高校を13 - 10で下して初優勝し、深紅の大優勝旗がはじめて津軽海峡を越え、私達の興奮もまだ覚めやらぬ秋晴れの9月4日、国際ロータリー創立100周年記念第24回全国ロータリークラブ野球大会地区予選「第2510地区親睦野球大会」が滝川市営球場と滝の川球場にて開催されました。

72クラブが所属する2510地区で野球同好会があるのは、8クラブ(伊達、静内、札幌幌南、札幌手稲、岩見沢、芦別、赤平、滝川)だけです。今年は持ち回りの順番で滝川クラブが主管、ホストクラブを努めました。



左から伊達、岩見沢、赤平、芦別、静内、滝川

往年の野球少年達も、なにせ平均年齢50才を越え、随所に珍プレイ、好プレイが続出の中、怪我などのトラブルも心配されましたが、待機した医師団にはとうとう声がかからず、カットバン3枚だけで無事終了しました。

決勝戦は芦別クラブと岩見沢クラブで戦われ、接戦

の末、6 - 4で岩見沢クラブが優勝し、甲子園への切符を手にしました。ここ2510地区は、甲子園での全国ロータリークラブ野球大会では、これまで決勝までは進んだ経験がありますが優勝はありません。今年は是非、岩見沢クラブには駒大苫小牧に続き、この北海道、第2510地区に優勝旗をと夢が広がります。

前夜祭は、参加チームとその応援団を囲んでゲームとPR合戦で大いに盛り上がり、近隣クラブとの友情と親睦を深める、すばらしい懇親会となりました。

4時間もかけて道南からご参加頂いた静内、伊達両チームに心より感謝申し上げますとともに、今回、諸般の事情で参加できなかった札幌手稲、札幌幌南チームには、ぜひ来年参加していただき、全8チームの大会となってほしいものと願っております。

岩見沢クラブの甲子園での善戦を祈って、また来年、元気で芦別でお会いしましょう。

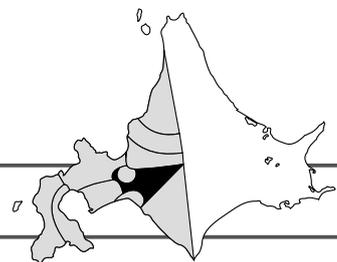


駒大苫小牧につづけ！



選手宣誓 滝川クラブ小林一磨主将

こんにちは！
第7グループです



第7グループ ガバナー補佐 大谷 恵一
(北広島)

第7グループに所属する6クラブを紹介いたします。当グループは千歳市・恵庭市・北広島市・長沼町・由仁町からなり、千歳市には2つのクラブがあります。

創立37年・会員数68名の千歳クラブは、昨年当グループから初めての佐藤秀雄ガバナーを輩出し、名実ともにリーダークラブとしての力を確かなものになりました。その活動は環境保全（ロータリーの森・地域の清掃）・青少年育成（ローターアクト・写生大会）等多岐に渡り、5年ごとの記念事業も目を見張るものばかりです。

千歳セントラルクラブは千歳クラブをスポンサークラブとして誕生し、創立14年・会員数30名です。米山梅吉翁を尊仰し、創立以来毎年米山家墓所をお詣りすると同時に、米山記念館新館に企画・賛同し、その維持に対し支援を続けています。



白樹の滝

恵庭クラブは創立35年・会員数51名で、青少年育成に力を入れてきました。小学生の相撲大会（参加者400名）、中学生の野球大会（参加26チーム）さらに



新千歳空港

交換留学生・財団奨学生・米山功労者もほぼ毎年出しています。青少年育成資金として積み立てている「歯車基金」も、もうすぐ活動をはじめましょう。

道内初の女性創立会長で話題をよんだ長沼クラブは、恵庭クラブをスポンサークラブに創立13年・会員数18名です。創立以来続いている長沼国際フェスティバルは、近隣町村の外国人英語教師・交換留学生・米山奨学生等の協力を得て500名以上の町民が参加しています。

日本一のハーブガーデンが有名な由仁クラブも恵庭クラブがスポンサーで創立12年・会員数15名です。今年も交換留学生を受け入れ米山功労クラブでもあります。

北広島クラブは創立25年・会員数19名です。札幌フィル管弦楽団によるコンサートがここ数年のメイン事業。中学・高校のプラスバンド部を招待し、楽団員による指導や合同演奏も行っています。

ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

札幌東RC	村山 富夫	会員	8月13日
札幌手稲RC	久末 満三	会員	8月13日
札幌西北RC	森本 正夫	会員	8月27日
札幌西北RC	西岡 憲廣	会員	8月27日
札幌西北RC	新谷 喜信	会員	8月27日
札幌真駒内RC	吉村 洋吉	会員	8月27日

ポール・ハリス・フェロー

余市RC	安田 亘	会員	8月6日
千歳セントラルRC	汲田 信夫	会員	8月13日
札幌手稲RC	網干 要	会員	8月13日

掲 示 板

ロータリーレートについて

10月のロータリー・レートは、引き続き108円です。

例会の変更について

倶知安 R C

10月6日(水) 「観楓会・G S E ウェルカムパーティー」
18:30 ~ 於：ホテル第一会館

室蘭東 R C

10月6日(水) ガバナー公式訪問 4 R C 合同例会
18:30 ~ 於：逢峯殿

10月13日(水) 振替休日(10月17日)

10月20日(水) 職場訪問例会 於：NTT室蘭支店

10月27日(水) 夜間例会 18:30 ~ 於：味処 さつき

岩見沢東 R C

10月12日(火) 地区大会の振替休会

岩見沢 R C

10月15日(金) 休会*

10月22日(金) 観楓夜間例会
18:00 ~ 於：酔月

10月29日(金) 職場訪問例会
12:30 ~ 於：ハマナスの丘
(岩見沢公園)

赤平 R C

10月19日(火) 休会*

10月26日(火) 夜間例会・観楓会
18:30 ~ 会場未定

江別西 R C

10月19日(火) 休会*

10月21日(木) 江別・江別西ロータリークラブ合同例会
18:30 ~ 江別市民会館37号室

10月26日(火) 21日振替の為休会

江別 R C

10月21日(木) 江別・江別西ロータリークラブ合同例会
18:30 ~ 江別市民会館37号室

当別 R C

10月26日(火) R & L 合同交流例会
18:00 ~ 於：田西会館

注) *定款第5条第1節に基づく休会

式典及び祝賀会日時の変更について

ガバナー月信2004 No. 8月号27P「函館 R C 創立70周年記念式典・祝賀会開催のご案内」について

日時が 平成16年10月25日(月)

時間が 記念式典 17時~18時 16時~17時

祝賀会 18時~20時 17時30分~19時30分
の通り変更になりました。

事務局移転について

札幌清田 R C

(新住所) 札幌市中央区北4条西15丁目1番14号
コアレックスビル5階
電話・FAXは同じです

ガバナー事務所からのお願い

クラブの出席報告は、毎月の最終例会から15日以内にお願ひ致します。(FAXもしくはE-mail)

変更等のご報告について

新会員、退会者、会員資格変更、クラブ事務所、例会場、例会日、時間の変更、会長、幹事等の移動の場合、所定の手続きによりご報告下さい。

新しく会員が入会された時は写真を同封の上、氏名、入会日をお知らせ下さい。また会員にご不幸があった場合には、氏名、年齢、ロータリー歴、写真を同封の上、至急ご報告願ひます。

クラブの移動例会等は地区内他クラブに周知して頂くため、変更日の50日前までにご連絡下さい。

各月ごとのクラブ会報を当該月の最終例会終了後、まとめて毎月ご送付下さい。

ガバナー月信へ原稿をお寄せ下さい。特にクラブの活動、トピックス、地域内の話題等、400字前後に写真1~2枚をご同封願ひればと考えています。原稿締切り日は毎月10日を予定しています。

8月会員増減数・出席率報告



グループ	クラブ名	例会数	会員数				出席率
			04.7.1	04.8.31	増減	内女性	
1	深川	3	40	42	2	1	90.60
	羽幌	4	47	47	0	1	87.50
	妹背牛	4	10	10	0	0	87.00
	小平	3	14	14	0	0	76.19
	留萌	4	59	59	0	0	98.50
小計			170	172	2	2	87.96
2	赤平	3	34	33	-1	2	73.40
	芦別	4	54	54	0	0	81.77
	砂川	3	54	54	0	0	96.15
	滝川	4	109	109	0	2	76.00
小計			251	250	-1	4	81.83
3	美唄	4	42	42	0	0	83.55
	江別	5	43	43	0	1	90.24
	江別西	3	37	37	0	3	85.58
	岩見沢	3	94	96	2	0	87.04
	岩見沢東	5	37	39	2	3	81.46
	栗沢	4	26	26	0	1	95.19
	栗山	4	29	29	0	2	96.15
	当別	4	38	39	1	1	82.05
	小計			346	351	5	11
4	札幌	3	123	130	7	0	98.19
	札幌あけぼの	3	16	17	1	1	100.00
	札幌はなます	4	24	24	0	4	70.57
	札幌北	4	49	49	0	5	93.32
	札幌モーニング	3	54	57	3	0	67.88
	札幌西	4	69	70	1	3	92.74
	札幌西北	3	48	48	0	2	90.47
	札幌手稲	3	39	42	3	1	100.00
	小計			422	437	15	16
5	札幌東	5	125	128	3	0	98.62
	札幌清田	4	26	28	2	5	100.00
	札幌幌南	3	69	72	3	0	100.00
	札幌真駒内	3	44	44	0	2	91.61
	札幌南	4	91	94	3	0	96.56
	札幌大通公園	4	19	19	0	4	71.04
	札幌セントラル	4	19	19	0	8	65.00
	新札幌	3	36	35	-1	2	89.81
小計			429	439	10	19	89.08
6	岩内	3	33	33	0	0	71.60
	倶知安	5	54	54	0	3	71.00
	小樽	4	74	77	3	0	89.93
	小樽南	3	86	86	0	0	83.75
	小樽銭函	3	23	23	0	3	86.80
	蘭越	5	14	14	0	0	68.30
余市	3	43	43	0	4	89.10	
小計			327	330	3	10	80.07

クラブ数	72クラブ
期首会員数	3,136人
当月末会員数(女性)	3,188(95)人
増加会員数	52人
当月平均出席率	82.94%

グループ	クラブ名	例会数	会員数				出席率
			04.7.1	04.8.31	増減	内女性	
7	千歳	4	65	69	4	2	68.40
	千歳セントラル	4	30	30	0	0	76.70
	恵庭	4	51	51	0	0	81.25
	北広島	4	19	19	0	2	88.88
	長沼	4	18	18	0	3	91.88
	由仁	4	15	15	0	0	75.00
	小計			198	202	4	7
8	えりも	4	24	23	-1	0	69.50
	三石	4	17	17	0	1	86.70
	様似	5	19	19	0	2	65.79
	静内	4	67	69	2	0	82.08
	浦河	4	40	40	0	1	89.02
	小計			167	168	1	4
9	伊達	4	56	59	3	0	77.54
	室蘭	3	51	53	2	0	90.19
	室蘭東	3	43	43	0	0	92.50
	室蘭北	4	37	37	0	2	100.00
	登別	4	39	39	0	2	84.62
	洞爺湖	3	10	10	0	0	80.00
	小計			236	241	5	4
10	函館	3	101	100	-1	0	77.64
	函館亀田	4	42	43	1	1	81.17
	森	4	43	42	-1	0	76.10
	七飯	4	24	24	0	0	80.20
	長万部	4	13	13	0	0	61.50
小計			223	222	-1	1	75.32
11	江差	3	16	15	-1	0	78.50
	函館五稜郭	3	68	67	-1	0	88.75
	函館東	4	50	59	9	7	82.05
	函館北	4	37	39	2	0	81.58
	上磯	3	29	29	0	3	67.80
	松前	4	9	8	-1	1	75.00
小計			209	217	8	11	78.95
12	白老	4	29	29	0	1	65.00
	苫小牧	3	56	57	1	0	75.19
	苫小牧東	4	32	32	0	3	85.94
	苫小牧北	4	41	41	0	2	89.11
小計			158	159	1	6	78.81
合計			3,136	3,188	52	95	82.94

期首会員数が修正されました。

新入会員のご紹介



佐藤 洋之
札幌清田RC
7月6日入会



伊藤 福蔵
函館東RC
7月6日入会



上林 嘉和
函館東RC
7月6日入会



松葉 陽子
函館東RC
7月6日入会



三山 良哲
函館東RC
7月6日入会



野崎 均
函館東RC
7月6日入会



坂下 賢二
函館東RC
7月6日入会



佐藤 健治
函館東RC
7月6日入会



三浦 栄治
函館東RC
7月20日入会



佐藤 俊一
函館東RC
7月20日入会



渡辺 直樹
岩見沢東RC
7月27日入会



若林 成治
札幌清田RC
8月10日入会



青木 進
函館東RC
8月10日入会



大和 力
岩見沢東RC
8月31日入会



東野 雅司
札幌北RC
9月6日入会



小山 進
滝川RC
9月9日入会



笹見 孝夫
滝川RC
9月9日入会

訃報

慎んでお悔やみ申し上げますとともに、
心からご冥福をお祈りいたします。

山中 謙治 会員(江差RC)
2004年8月11日ご逝去(享年76歳)

【ロータリー歴】

1963年7月入会(会歴 42年)
(現) 新世代委員会
出席奨励副委員長
会長 2回歴任
分区代理 1回歴任
全委員長を歴任



10月・11月 地区カレンダー

10 月 職業奉仕月間 / 米山月間		11 月 ロータリー財団月間 / 世界インターアクト週間(11/5を含む1週間)	
1 (金)		1 (月)	
2 (土)		2 (火)	
3 (日)	ガバナー・ノミネー候補者推薦締切日	3 (水)	
4 (月)	公式訪問/北広島・恵庭・長沼・由仁RC (12:30,北広島プリンスホテル) 第3350地区GSEメンバー来日	4 (木)	
5 (火)	公式訪問/千歳・千歳セントラルRC (12:30,ホテル日航千歳)	5 (金)	
6 (水)	公式訪問/室蘭・室蘭東・室蘭北・登別RC (18:30,蓬岫殿)	6 (土)	
7 (木)	第1回G指名委員会及び第2回G諮問委員会	7 (日)	
8 (金)		8 (月)	
9 (土)		9 (火)	
10 (日)		10 (水)	
11 (月)	地区大会記念囲碁大会 (札幌,日本棋院北海道本部) 臨時ガバナー会 (新高輪プリンスホテル)	11 (木)	
12 (火)		12 (金)	
13 (水)		13 (土)	
14 (木)		14 (日)	
15 (金)	地区大会記念ゴルフ大会 (登別カントリー倶楽部)	15 (月)	
16 (土)	地区大会第1日目 (祝いの宿登別グランドホテル)	16 (火)	
17 (日)	地区大会第2日目 (日本工学院北海道専門学校,第一滝本館)	17 (水)	
18 (月)		18 (木)	
19 (火)		19 (金)	
20 (水)		20 (土)	
21 (木)		21 (日)	
22 (金)		22 (月)	
23 (土)		23 (火)	
24 (日)		24 (水)	
25 (月)	函館RC創立70周年記念式典 (17:00,函館国際ホテル)	25 (木)	ロータリー財団地域セミナー (広島)
26 (火)		26 (金)	第2回ガバナー・エレクト研修セミナー (同)
27 (水)		27 (土)	第32回ロータリーゾーン研究会(同)
28 (木)		28 (日)	第23回ロータリー研究会(同)
29 (金)	第3350地区GSEメンバー・さよならパーティー	29 (月)	
30 (土)		30 (火)	
31 (日)	第3350地区GSEメンバー帰国		



ROTARY
Expert volunteers for 100 years

www.rotary.info



DISTRICT 2510 of ROTARY INTERNATIONAL
2004-2005
GOVERNOR'S MONTHLY LETTER